

特定非営利活動法人 東海自然学園

2025 年度 総会議案書

日時：2025 年 6 月 18 日（水）13 時 00 分
会場：北生涯学習センター 第一集会室

議事次第

- 1、 開会
- 2、 代表理事挨拶
- 3、 議長選任
- 4、 審議事項
 - 第 1 号議案 2024 年度事業報告の件
 - 第 2 号議案 2024 年度収支決算報告の件
 - 第 3 号議案 2025 年度事業計画の件
 - 第 4 号議案 2025 年度収支予算計画の件
 - 第 5 号事案 2025 年度役員選任の件
- 5、 質疑及び討論・採決
- 6、 閉会

<第1号議案>

2024 年度事業報告

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

【2024 年度方針】

今年度は「東海シニア自然大学」を開講して 20 周年という区切りの年となる。派手なセレモニーは行わないが、これまで学園の諸活動を支えていただいた OB の皆様方と現受講者である第 19 期生（高等科）・20 期生（基礎科）の皆様とともに式典を実施したい。これまでの会員の皆様のご支援に感謝し、また今後東海自然学園が益々発展していくことを期して、会員全員で諸施策を遂行し、次なる 30 周年に向かう礎を築く年としたい。

【2024 年度取り組み】

東海シニア自然大学開校 20 周年と言う節目を迎え、当初は派手なセレモニーは行わないとしていたが、やはり 20 年目という大きな節目を大切にしたいというスタッフの気持ちが高まり、20 周年を彩る記念事業を実施することに決定。20 周年記念プロジェクトチーム(10 名)を結成し、『感謝・交流・PR』を目的に掲げ『未来に向けて、夢を語る!』をテーマに全スタッフが団結し、下記の企画を実施した。いずれも計画通りに進めることができ、多くの会員による参加・協力を得て 20 周年を皆で盛り上げることができた。目標に掲げた『感謝・交流・PR』も達成することができたと言える。

- 20 周年記念式典・講演会の開催
- 卒業生・在校生の集いの開催
- 20 周年記念冊子「舩Ⅱ」の作成と記念缶バッジの作成
- 4 年振り OB ツアー(1 泊 2 日)の実施

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

◇入学者 ◎花組（36 名） ◎星組（36 名）

◇実施日

- ・ 花組 第 1・第 3 火曜日
- ・ 星組 第 2・第 4 火曜日

◇担 当

- ・ 花組 スタッフ 6 名、アシスタント 0 名
- ・ 星組 スタッフ 7 名、アシスタント 2 名

◇修了者・皆勤者数

- ・ 花組 35 名 ◎1 年間皆勤 3 名
- ・ 星組 35 名 ◎1 年間皆勤 9 名

◇資格取得者（自然観察アドバイザー）

- ・ 花組（14 名） ・ 星組（5 名）

◇高等科への進学者数

- ・ 34 名

◇内容報告

- ・ 両クラスともに怪我やトラブルなどなく全講座を実施することができた。
- ・ 休学・退学者があったが、それぞれ個々の事情（健康上の理由など）によるものだった。

- ・ 「薬草入門」は新しい講師に変わり、前講師とは違うスタイル（野外実習有り）での講座となったが、特に問題なく充実した講座となった。
- ・ 「インタープリテーション入門」講座は、講師が急な体調不良で辞退されたが、急遽代わりの先生に相談し快く引き受けていただく事ができた。（そのまま次年度も継続頂く）
- ・ 「昆虫入門」は両クラスとも天候不良により野外実習ができなかったため、補習講座として野外実習のみを後日行った。

◇委員会活動

【企画委員会】

- ・ **花組** 〈日帰り企画〉9/24（金）いがぐりの里マロンパークにて栗拾い体験 他
〈修学旅行〉トヨタ白川郷自然学校にてスノーシュー体験、白川郷見学（31名参加）
- ・ **星組** 〈日帰り企画〉9/17（火）赤そばの里にてそば畑見学、ガーデンパパ立ち寄り（28名参加）
〈修学旅行〉白川トヨタ自然学校にてスノーシュー体験（30名参加）

【観察記録委員会】

- ・ 両クラスともに個人の観察記録を立派な冊子に仕上げ、報告会にて発表した。

【学園祭委員会】

両クラスともに委員会を中心にクラス全体で取り組み、ステージ発表、展示、ワークショップに挑戦した。ステージ発表は歌や踊り、クイズや寸劇といった様々な表現で会場を盛り上げ、客席も一緒に楽しむことができ高評価を得た。また、ワークショップでは様々な工夫が施された工作が展開され、多くの参加で賑わった。展示を含めそれぞれの完成度が高く、両クラスともに学園祭を成功に導く素晴らしい内容だった。

●実施日 11月28日（木）・29日（金）

●会場：愛・地球博記念公園内 地球市民交流センター

花組

- ◎ 〈ステージ〉『楽しく学び、明るく表現しよう』～寸劇、踊り、自然クイズなど～
- ◎ 〈展示〉『共生 ～共に生きる未来を拓こう～』
- ◎ 〈ワークショップ〉『ヒノキのウッドバーニング・香り袋や花束づくり』

星組

- ◎ 〈ステージ〉『自然をエンジョイ』～コーラス、ライチョウの不思議、寸劇、合奏～
- ◎ 〈展示〉『自然の贈りもの』
- ◎ 〈ワークショップ〉『草木染手ぬぐい、マツボックリアート、貝殻アート』

■高等科

◇実施日 金曜日（原則）

◇担当 スタッフ（5名）

◇修了者数

- ・ 37名 ◎2年間皆勤者（6名） ◎1年間皆勤者（16名）

◇資格取得（自然観察上級アドバイザー）

- ・ 9名

◇実施内容

- ・ 講座中の大きな怪我や事故などなく、安全に1年間の講座を実施することが出来た。
- ・ 出席率もよく、皆が良い雰囲気の中で仲間との交流を楽しみながら学ぶことができた。
- ・ 合宿は講師の体力をサポートするため補助講師2名が加わり、問題なく実施できた。

◇委員会活動

【企画委員会】

- ・ （日帰り企画）9/13（金）大滝鍾乳洞見学、美濃和紙体験、うだつの町散策（35名参加）
- ・ （修学旅行）福井県立恐竜博物館、丸岡城、一乗谷博物館 など（36名、全員参加）

【観察記録委員会】

- ・ 委員会が中心となり全員の観察記録を冊子にまとめ完成させた。

【学園祭委員会】

第12回学園祭のテーマ「見つめよう 感じよう 身近な自然」を決定し、委員会メンバーを中心に盛り上げた。

- ・〈ステージ〉『学ぼう！楽しもう！つながる仲間』～踊り、歌、クイズ、寸劇～
- ・〈展示〉『高等科活動内容』
- ・〈ワークショップ〉『どんぐりトトロ、タイルのコースター、虫よけトンボ』

■カリキュラム選択科

下記の科目に選択科参加があった。

- ・「身近な野草」義朝の森 1名
- ・「地質巡り①」名古屋城 2名
- ・「植物を知る②」茶屋ヶ坂公園 1名
- ・「昆虫と植物の関係」海上の森 2名
- ・「水辺の生きもの①」中生涯学習センター 1名
- ・「昆虫と菌類の共生」稲武 1名
- ・「中部の自然を知る①」鳳来寺山 2名
- ・「中部の自然を知る②」森林公園 1名
- ・「インタープリテーション①」東山動物園 1名
- ・「地質巡り②」知多半島 2名
- ・「中部の自然を知る③」阿智村 1名
- ・「どんぐりをとことん極める」豊田市自然観察の森 1名
- ・「森林保全を学ぶ①」北高山緑地 1名

■専修科

- ◇ 担 当 3名
- ◇ 定 員 最大20名（講座により最大17名） 催行最少人数12名
- ◇ 実施日 年間9講座 11日間
- ◇ 実施内容
 - ・計画通り年間9講座、11日間講座開催した
 - ・延べ受講者数185名日 欠席率6%
 - ・いずれの講座も受講者の評価は大変良かった。
 - ・募集定員割れの講座が3講座あった。

広報

下記の内容で広報し、第21期生も定員（72名）を超える申し込みを得ることができた。

- ◇ 担 当 スタッフ＝5名、サポート隊＝9名
- ◇ 実施内容

『第21期生募集』

募集パンフレットの発行数は15,000部とした。

- ・第1回目発送： 6月14日 346ヶ所 4,370部
- ・第2回目発送： 10月11日 610ヶ所 7,982部 合計12,352部

『体験入学』

- ・内容 ●代表あいさつ ●学園の概要説明 ●ミニ講座
- ・会場 愛知県森林公園（座学：案内所内多目的室）
- ・講師 久村三重子（2期生）
- ・第1回 6月26日 参加人数（14名）
- ・第2回 11月14日 参加人数（15名）
- ・第3回 1月28日 参加人数（29名）

『その他の広報活動』

- イオン・黄色いレシート活動
 - ・4月～2月店頭声掛けに参加し20,600円分のギフトカードを頂きコピー用紙を購入。
- 環境デーなごや

- ・ 9月14日（土）に久屋大通公園で開催され、当学園のブースを出展。スタッフ6名サポート隊3名で展示やアンケートにて学園をPRした。約160名がブースを訪れアンケートに回答下さった。（来年度はシールラリーへの登録をすると良い）
- メディア等への投稿
 - ・ 20周年記念行事の開催、天白公園自然観察会、体験入学、学園祭などを中日新聞・朝日新聞・朝日新聞・日本自然保護協会に掲載投稿した。
 - 20周年記念式典に中日新聞が取材に訪れ、中日新聞に記事として掲載された。

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇担 当 3名
- ◇人 数 59名
- ◇方 針 社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。また、利益を追及する事業のみではなく、利益につながらなくとも自身の向上や社会貢献価値のある事業を実施する。
- ◇目 的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。
- ◇活 動
 - ・ 定例活動（第2・第4水曜日）と、イベントやなごや環境大学での企画・実施
 - ・ 今年度より定例活動の会場を北生涯学習センターに固定（出席率が増えた）
- ◇今年度の目標と達成度
 - ・ 目標① 人に伝えるアウトプット活動を充実させるため、今年は特に「標本や解説」など展示の充実に力を入れる。（工作指導だけではなく自然の面白さを伝える）
 - メンバーのアイデアで木の実の標本を2種類（瓶詰め式、壁掛け式）を作成。学園祭やイベントにて展示した結果、多くの人が興味を示し効果があった。
 - ・ 目標② 昨年度から準備を進めている新作を軌道に乗せる。
 - 今年度の新作「竹ワンカー」や「魚釣り」は改善を重ねることで人気が高まっている。更に完成度を高め、定番作にしたい。
 - ・ 目標③ より良い作品を仕上げられるよう、技術の向上を図り、丁寧な仕上げに努める。
 - 先輩メンバーの指導により、丁寧な仕上げを心がけ手触りや安全面に配慮した工作キットをつくる完成度は高まってきている。しかし、現地にて不備が見つかり子どもたちに残念な思いをさせてしまうことがあるため、互いのチェックを更に強化する必要がある。

◇年間活動実績

参加した受託事業や行事

- 戸田川緑地「とだがわまつり」【5/4土～5/5日】 ★参加者（137名＋ガチャ74個）
- 大曾根七夕祭り【7/27土～7/28日】 ★参加者（149名＋ガチャ50個）
- 戸田川「秋まつり」【10/12土～10/13日】 ★参加者（86名＋ガチャ66個）
- 学園祭作品展示（木の実標本や作品、木の実ガチャポン）とワークショップ「木の実の標本」 ★参加者（60名＋ガチャ40個）
- 障害者支援施設への出前教室「魚釣り」→1・2月に4カ所の施設を訪問（59名参加）
- なごや環境大学「共育講座」は上期・下期の2回企画申請し各4回の講座を実施した。
 - 【上期】「竹を知り六つ目編波縁かごを作ってみよう」 6/4・6/5・6/10・6/11
→のべ81名が参加し、最終日には見事な竹かごを完成させることができた。
 - 【下期】「網代編みと四ツ目編みのコースターを作ろう！」2/7・2/10・2/18・2/21
→のべ81名が参加し、最終日には2種類のコースターを完成させた。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察と自然に関する座学テーマについて、自分自身の学習意欲を高め（リーダーとして）社会貢献することを目的に、学習・研究・実践を行う。前年度まで別々に運営されていたレギュラーコース（在籍4年以下）とキャリアコース（在籍5年以上）を統一し、全6年制とした。また6年間在籍後はプラチナコースのメンバーとして活動に参加が可能とした。

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 8名

◇人数 28名

◇目標

- ・お互いに学びあい知識を深める
- ・自分自身の学習意欲を高め、社会貢献できるよう年間計画を立てて学習・研究・実践する

◇活動内容

全25回の活動計画に対し、以下24回実施、1回は雨天で中止

- ・オリエンテーションと班会議 1回
- ・観察会 11回；4班体制で各班3回企画担当、うち1回は雨天で実施中止
藤巻町（4月）、金華山（6月）、葦毛湿原（6月）、城山・御岳休暇村（7月1泊）、
王滝溪谷（9月）、定光寺（10月）、明德公園（11月）、くらがり溪谷（11月）、
勅使池（12月）、海上の森（3月）、やまじの森（3月）
- ・座学 1回
- ・ミニ観察会と懇親会 1回
- ・天白公園観察会（一般参加者向け） 下見3回・本番3回
（天白公園整備クラブ・天白生涯学習センター共催）
- ・基礎科受託講座 下見1回・リハーサル1回・本番2回（花組・星組）

◇総括

- ・観察会では担当班が案内を行うが、現地で案内人を依頼した場合もあって、幅広い知識が得られた。観察テーマについては、多くが植物であったが、自然に関することなら何でもよく、もっと自由に考えていくとよい。
- ・年間の観察地を活動の初日に決めるのが難しかった。過去の観察地情報を共有して各班で行きたい観察地を検討のうえ後日決定でよい。
- ・アクセスは公共交通機関利用を基本としているが、行ける観察地が限られるため、観察地まで最寄り駅から車の乗り合わせで行く場合もあった。
- ・夏は最近とくに暑さが厳しくなり、涼しい場所とするか実施を避けるなど、活動に配慮が必要と考えられた。
- ・天白公園観察会・基礎科受託講座は、キャリアによらず1年生以上全員で取り組み、周到的な準備をして問題なく実施できた。企画はスタッフ中心で進めたが、ノウハウ継承のためスタッフ以外にも引継いで行くとよい。
- ・出席率 68.1%

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担 当 6名

◇実施内容

- 「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」（2021年度から5回目）
 - ・森林公園整備科との協働で対応 ・申請額：566千円→決定額：351千円
 - ・活用状況 ①ノコギリ、双眼鏡を購入 : 136千円
 - ②講演会・学習会謝礼（5回） : 110千円
 - ③その他 森林公園入園料、会場費他、 : 105千円
 - ・県主催の活動交流会に参加（2/12）・・・資料展示と交流での担当スタッフが参加。
- 「東海シニア自然大学開校20周年記念事業」の実施
新規事業科メンバーと立候補者を加えた10名でプロジェクトチームを作り、下記4つの企画を計画・実施した。また、プロジェクトチーム以外のスタッフもいずれかの企画を担当し、全スタッフが実働部隊となり取り組んだ。下半期に行事が集中し多忙となったが、全ての催し物が無事終了し大成功を収めることができた。
 - ①「卒業生・在校生の集い」の開催
 - ・12/2（月）12時～14時 名古屋クレストンホテルにて
 - ・1期生から20期生まで全165名が参加し食事を楽しみながら20周年を祝った。
 - ・初めての交流会だったが、クイズや会話で会場は大変盛り上がり、好評だった。
 - ②「20周年記念式典」の開催
 - ・1/29（水）Niterra日本特殊陶業市民会館「ビレッジホール」（※500名来場）
 - ・午前の部（式典）には歴代代表理事や講師陣など15名の来賓をお迎えした。
 - ・スタッフが制作した「映像と証言で綴る学園20年の歩み」を上映し、会場インタビューを加え、皆で20年を振り返ることができた。
 - ・午後の部（記念講演会）には鈴木純先生をお迎えし「半径100mでたのしむ身近な植物観察のススメ」のタイトルでご講演頂いた。
 - ③「20周年記念冊子 ～舩Ⅱ～」と記念缶バッジの作成
 - ・「過去・現在・未来」へと繋がる校正とし、カラー全10頁の冊子を1000部作成し、20周年記念式典にて参加者に配布した。（記念缶バッジは20種類作成）
 - ・内容：設立者の想い、20年間の年表、現受講生やスタッフの声、アルバムなど
 - ④「校歌・応援歌」の誕生
 - ・20周年を記念してケヤキ通信で募集し、東海シニア自然大学の校歌と応援歌が誕生した。
 - 校歌（作詞作曲：19期 浅野義正）●応援歌（作詞作曲：20期 田中末男）

交流部

◇担 当 3名

◇実施内容

- クラブについて
 - ・7/5（金）クラブ長会議開催
 - ・学園祭の展示：全9クラブと2地域サークルが参加
 - ・クラブの廃止：2025年3月31日付け
（休止→廃止）プチトレッキングクラブ
- OBの活動について
 - ・4年ぶりにOBツアーを実施
 - ◎実施日：10月30（水）～31日（木）
 - ◎宿泊先：「芦生山の家」（京都府南丹市美山町）

◎参加者：全 25 名 （※引率スタッフ 3 名）

期	1	7	9	11	12	14	15	16	17	18
人数	1	1	1	1	2	3	3	4	4	5

◎内 容：美山かやぶきの里ガイドツアー/芦生の森トレッキング（上谷・杉尾峠）ほか

●「あらくさについて」

・No. 75～79 号と計画どおり 4 回発行した。

◇各クラブの活動報告

「野鳥クラブ」

1. クラブ長 加藤浩生（15 期）
2. 登録人数 2024 年 4 月～9 月：31 名 2024 年 10 月～2025 年 3 月：39 名（体験入会 8 名）
3. 年会費 1,000 円
4. 活動方針と目標

野鳥観察を通して、野鳥に親しみ、自然への意識を深め、かつ会員相互の親睦を図る。

- ① 探鳥会を 4 回開催する。
- ② 野鳥知識をより深めるため、座学を 1 回開催する。
- ③ 秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ④ クラブ員間の親睦を深める。

活動計画

第 1 回	探鳥会	5 月	（夏鳥観察：海上の森）
第 2 回	座学	8 月	（テーマ：未定）
第 3 回	探鳥会	9 月	（干潟の野鳥観察：藤前干潟）
第 4 回	学園祭	11 月	（テーマ：野鳥クラブ探鳥会活動紹介）
第 5 回	探鳥会	12 月	（冬鳥観察①：湖北野鳥センター；打診中）
第 6 回	探鳥会・総会	3 月	（冬鳥観察②：平針）

5. 活動実績

■第 1 回行事：探鳥会

実施日時：2024 年 5 月 23 日（木） 9:30～12:00 実施場所：海上の森

参加者：13 名 鳥合せ：21 種（含む鳴声）

＜特記＞オオルリの雄、雌がヒナ用の餌を咥えてじっとしているところを観察した。ホトギス、サンショウクイ、コジュケイ、キビタキ、センダイムシクイの鳴き声がよく聞こえた。

■第 2 回行事：座学及び昼食会

座学テーマ：タカの渡り

実施日時：2024 年 8 月 22 日（木） 10:00～12:00 実施場所：名古屋市北生涯学習センター

講師：日本野鳥の会 愛知県支部副支部長 村上 修 様 参加者：22 名

＜特記＞タカの渡り観察の推薦地、観察に必要なもの、渡りを行うタカの種類などを学んだ。

昼食会

実施時間：12:00～14:00 実施場所：木曽路 黒川店

＜特記＞自己紹介から探鳥談を中心に親睦を図ることができた。案内人の村上様も参加。

■第 3 回行事：探鳥会

実施日時：2024 年 9 月 4 日（水） 10:00～12:00 実施場所：藤前干潟

参加者：17 名 鳥合せ：26 種（含む鳴声）

＜特記＞近くでトウネン、ハマシギが採餌するところを観察した。野鳥観察館からは望遠鏡で希少種であるクロツラヘラサギも見ることができた。

■第 4 回行事：学園祭 テーマ「探鳥会で出会った野鳥たち」

実施日時：2024 年 11 月 28 日（木）～29 日（金）

実施場所：愛・地球博記念公園 地球市民センター

＜展示内容＞探鳥会で出会った野鳥たちの写真と説明、クラブ員が撮った野鳥の写真、野鳥のぬいぐるみ他、野鳥のペーパークラフト、野鳥に関する書籍、野鳥の鳴声タッチペン、先輩クラブ員の野鳥写真アルバム等

■第5回行事：探鳥会

実施日時：2024年12月12日(木) 9:00～14:30 実施場所：琵琶湖湖北野鳥センター周辺

案内人：湖北野鳥センター 池田様 参加者：19名 鳥合せ：52種(含鳴声)

＜特記＞野鳥クラブ初のバスを使った遠方探鳥会、コハクチョウ、ヒシクイを観察し、目当てのオオワシの飛翔する姿を見ることができた。

■第6回行事：探鳥会

実施日時：2025年2月13日(木) 実施場所：勅使池

参加者：17名 鳥合せ：39種(含鳴声)

＜特記＞年間行事には予定してなかった探鳥会で、案内人なしでの観察会だった。水鳥を中心に多くの冬鳥を観察した。

■第7回行事：探鳥会・総会

探鳥会

日時：2025年3月14日(金) 9:00～12:00 場所：平針(農業センター周辺)

参加者：28名 鳥合せ：34種(含鳴声)

＜特記＞満開のしだれ梅の中で探鳥会がスタートした。見慣れたメジロ、コゲラ、ヨシガモ、ハシビロガモなどの中で、イカルの小群、オンドリがこの日のトピックとなった。

■2024年度総会

開催時間：12:00～12:30

開催場所：名古屋市農業センター講習室

参加者：26名 委任状：8名

議事：総会議案(2024年度活動報告、2024年度会計報告、2025年度役員選出とクラブ運営案、2025年度活動計画案)が、全会一致で承認された。

総会終了後、新設の企画運営委員会を開き、2025年度に向けて具体的運営方法、2025年第1回行事の探鳥会、第2回行事の探鳥会について話し合っ

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄(9期) 登録人員 38名 会費 1,000円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

- 4/9(火) 総会…(午前中)東山動植物園 植物会館・午後撮影会 (33名参加)
- 5/7(火) 浜名湖ガーデンパーク撮影会 (20名参加)
- 6/5(水) 午前中:互選会・午後千種公園百合撮影会 (24名参加)
- 7/26(金) 入笠山高山植物撮影会⇒妻籠宿撮影会に変更 (16名参加)
- 8/21(水) 互選会と写真研究会 2L～A4程度のプリントでの互選会「神田荘」(26名参加)
- 9/26(木) 彼岸花撮影会・ごんぎつねの里 (18参加)
- 10/2(水) 互選会と写真研究会 2L～A4程度のプリントでの互選会「神田荘」(28名参加)
- 11/28・29 学園祭・A4写真展示＋スマホ写真の展示 →モリコロパーク (全員31名参加)
- 12/4(水) 森林公園紅葉撮影会とフォトコンテスト応募 (※9名入選) (23名参加)
- 1/20(月) 互選会と写真研究会 2L～A4程度のプリントでの互選会「神田荘」(21名参加)
- 3/5 (水) なばなの里 カワヅザクラ撮影会 (19名参加)
- 3/27(木) 2024年度総会・東山動植物園植物会館 (32名参加)

「地質クラブ」

●クラブ長 園田 信五（11期） ●登録人員 131名 ●年会費 1,000円

●活動方針や目的・目標

“地質を知れば見る風景が変わる”を旗印に森 勇一先生に講師をお願いして、巡検を行った。又、講演会も1回開催した

●活動実績

①2024年4月24日（25名参加） と 5月8日（27名参加）

桑名市多度古野地区 森先生の地元で企画された防災倉庫の見学と北勢―多度断層にたるみ地点を歩いた。

②2024年6月20日（38名参加） と 6月27日（36名参加）

長野県阿南町、大鹿村、伊那市長谷 富草層から採取された化石が展示してある阿南町と中央構造線が走っている大鹿村の博物館と長谷の溝口露頭を回った

③2024年11月20日（41名参加） と 11月22日（37名参加）

岐阜県根尾村地内 1891年に起こった濃尾地震によって変形し今でも観察できる地点4か所と断層観察館を巡った

④2025年2月27日（65名参加） 天白生涯学習センター

講演会 講師：森 勇一先生 テーマ：おもしろ昆虫考古学

森先生が長年に亘って取り組まれている埋蔵昆虫化石を調査対象とした研究の一端5時代・地点について講演してもらった

「植物クラブ」

●クラブ長 佐藤 博（18期） 登録人員 109名 会費 1,000円

●活動方針・目標

・多くの植物と出会い、五感を通じてお互いに共有し合い、楽しく観察しましょう

●活動実績

活動日	行き先	参加数	活動内容(植物観察のテーマなど)
4/21(日)	城山(長野県木曽福島市)	58	マルバコンロンソウ、エイザンスミレなどの城山の植物の開花を楽しむ
5/22(水)	竜吟の森(岐阜県瑞浪市)	70	若葉の美しい季節、お目当ての植物探しながら楽しく歩きましょう
6/7(金)	みたけの森(岐阜県御嵩町)	64	ササユリの群生とラクウショウの新緑を楽しもう！
6/25(火)	海上の森(愛知県瀬戸市)	59	海上の森の貧栄養湿地を見に行こう！
8/1(木)	伊吹山(滋賀県米原市)	42	伊吹山の高山植物を観察しましょう！
10/30(水)	竜吟の森(岐阜県瑞浪市)	35	マルバノキの花を探しながら森歩きを楽しもう！
11/15(金)	みたけの森(岐阜県御嵩町)	44	推しの樹を探そう！
3/5(水)	東山植物園(愛知県名古屋市)	73	春の予感を感じましょう！

「植物アートクラブ」

●クラブ長 松山治和（14期） 登録人員 21名 会費 2,000円

●活動日 原則 毎月第4木曜日 13:00～16:00

●講師 高島 裕美子さん（9期生）

●活動内容 植物画を描くことにより、植物の観察力を高め、その理解を深める
また会員間の親睦を深める

<例会活動>

日時	時間	場所	出席者数	活動内容
4/25(木)	13:00～16:00	福祉会館 7F 小会議室	16 名	計画・紹介/画材と用具
5/23(木)	10:40～15:00	星ヶ丘テラス/東山動植物園	14 名	野外スケッチ会
6/27(木)	13:00～16:00	北生涯学習センター第 2 集会室	18 名	立体図、折り紙
7/25(木)	13:00～15:00	北生涯学習センター第 2 集会室	16 名	線を引く、陰をつける
8/22(木)	13:00～16:00	福祉会館 7F 大会議室	16 名	トウガラシを描く
9/26(木)	13:00～16:00	北生涯学習センター第 2 集会室	19 名	ツバキ等の枝葉を描く
10/24(木)	13:00～16:00	イーブルなごや第 4 集会室	16 名	鉛筆、消しゴムと紙の質
11/21(木)	13:00～16:00	福祉会館大会議室	18 名	落ち葉を描く
12/26(木)	13:00～16:00	福祉会館 7F 研修室	13 名	山茶花、椿の花を描く
1/23(木)	9:00～14:30	福祉会館 7F 中会議室/木曾路	16 名	野菜、生り物/新年会
2/27(木)	13:00～16:00	福祉会館 7F 大会議室	14 名	ツタを描く
3/27(木)	13:00～16:00	北生涯学習センター第 2 集会室	14 名	総会/作品発表会

<その他の活動>

- ・〈学園祭〉11月28日(木)29日(金) 有孔ボード3枚、長机2脚 作品展示(19名出展)
- ・〈スケッチ会〉5/23(木) 10:40～15:00 星ヶ丘テラス・東山動物園 (14名参加)
- ・〈懇親会〉10/10(木) 10:00～15:00 名古屋市農業センターBBQ 広場にて BBQ (15名参加)
- ・〈新年会〉1/23(木) 12:30～14:30 木曾路黒川店 (16名参加)

「自然句詠クラブ」

●クラブ長 伊藤繁子(8期) 登録人員15名 会費1,500円

●活動方針と目的

- ・ 自然を愛(め)で、その感動を575俳句に表現し楽しむ。
- ・ クラブ員が少ないため全員が何らかの役割を担いクラブの運営に主体的に参画する。
- ・ クラブ員の交流として、新入員歓迎会と忘年会を行う。

●活動目標

- ・ 月一回自作の3句を持ち寄り句会をする。
- ・ 年一回は、吟行(現地に赴き作句し句会を行う)を行う。
- ・ 一年のまとめとして句集を作成する。

●活動内容

イーブル名古屋を会場として月1回句会を開催した。

- ・ 自然句詠会100回記念親睦旅4/26～27 信州平谷温泉ひまわりの湯 (11名参加)
- ・ 第101回 5月30日 12名、投句1名
- ・ 第102回 6月28日 11名、投句1名
- ・ 第103回 7月29日 11名、投句1名
- ・ 第104回 9月30日 10名、投句1名
- ・ 第105回 10月29日 11名、投句1名
- ・ 第106回 11月28日 11名
- ・ 第107回 12月27日 12名
- ・ 第108回 1月31日 12名、投句1名
- ・ 第109回 2月26日 11名、投句1名
- ・ 第110回 3月31日 11名、投句2名

※8月は台風により中止

「湿地クラブ」

●クラブ長 小沢 球一（10期） 登録人員 18名 会費 1,000円

●活動方針・目標

- ・湿地観察のベテランを育成するとともに湿地に関するデータを作成、収集、保存し併せて湿地保護のボランティア活動を行う。

●活動内容

- ・河川環境楽園観察会 4/4(11名参加) ・桶ヶ谷沼観察会 5/18(9名参加)
- ・天生湿原観察会 6/15(8名参加)
- ・鎌池湿原、梅池自然園観察会 7/29～7/30(6名参加)
- ・八島ヶ原湿原観察会 8/5(4名参加) ・板山高根湿地観察会 9/14(7名参加)
- ・葦毛湿原観察会 11/16(8名参加) ・勅使池観察会 12/16(7名参加)

【八竜湿地湿地保全ボランティア活動】

- ・1/16(5名参加) ・1/25(5名参加) ・2/22(5名参加)

「ハイキングクラブ」

●クラブ長 栗田 博之（13期生） 登録人員 136名 会費 1,000円

●活動方針

- ・その町のガイドさんと散策し、町の探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
- ・体力の維持及び増進。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動内容

- ・第22回 5/2(木)・5/9(木) 碧南てらまちハイキング (88名参加)
- ・第23回 10/24(木)・10/31(木) 瀬戸ハイキング (93名参加)
- ・第24回 12/5(木)・12/12(木) 朝日遺跡 (87名参加)
- ・第25回 3/13(木)・3/20(木) 清須ハイキング (87名参加)

「蝶と花の観察クラブ」

●クラブ長 大脇 雅久（8期生） 登録人員 50名 会費 1,000円

●活動目的

- ・東海地方の減少傾向にあるチョウ類と植物の調査。
- ・観察会などで蝶と植物の解説ができるリーダーの育成。

●活動内容

◎小幡緑地のチョウ類調査 植物調査(モニタリング1000をお手本)を中心に活動

- ・4月11日(木) 竜吟の森 水晶山 (12名参加)
- ・4月12日(金) 竜吟の森 水晶山 (9名参加)
- ・4月25日(木) 長野県木曽郡木祖村藪原鳥居峠 (10名参加)
- ・5月15日(水) 長野県安曇野アルプス公園 堀金・穂高地区 (8名参加)
- ・5月29日(水) 愛知県緑化センター 昭和の森 (9名参加)
- ・5月30日(木) 愛知県緑化センター 昭和の森 (6名参加)
- ・6月12日(水) 南アルプス 鳥合林道
- ・7月16日(火) 上高地
- ・9月11日(水) 愛知県緑化センター 昭和の森 (8名参加)
- ・10月11日(金) 伊丹昆虫館見学ツアー
- ・3月6日 総会

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

- ◇活動日 毎月第2・第4木曜日 ◇科員数 24名
- ◇年間活動実績
- ・定例活動 = 18回、高等科講座 = 1回、延べ 314名（1回平均 16.5名）
 - 中止 = 6回（雨・暑さ = 4、学園祭 = 1、年末 = 1）

◇活動状況

- ・作業開始前に、ラジオ体操、安全作業マニュアルの読合わせを行い安全作業に努めた。
- ・2024年度の活動は協定区域のB地区で行った。
- ・この区域は傾斜地が多くて滑りやすいが怪我無く活動できた。
- ・4～5月に植生調査を実施。調査結果は今年度から各班で取り纏めた。
- ・作業終了後に、毎回ヒヤリハットの報告会を行い事故防止に努めた。
- ・希少種・残したい植物には赤い紐で目印をして保護した。
- ・入林届（県有林事務所宛）と用品管理者の担当を新たに決めた。

■瀬戸里山整備科

年間計画に沿って活動、今年の課題であった整備場所までの通路及び周回路を設置、また斜面通路を平になるよう拡張した。

安全作業を最優先とし、竹林の急斜面作業においては、ヒヤリハットの確認を徹底した。

10月・11月の体験整備に3名の参加があり、うち2名が入会した。

- ◇担当 4名 ◇登録者 21名
- ◇活動場所 瀬戸市曾野町
- ◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日
- ◇年間活動日 11日（雨で予備日活動1日） 述べ参加人数・・・142名
- ◇活動内容

- ① 各人の声掛けで安全作業を徹底し、全員無事故で活動出来た。
- ② 恒例の行事として4月の筍掘り・12月の門松作りを実施、科員の連帯と協調を図る。
- ③ 8月には知多の竹林を見学、先方の整備メンバーと交流し、1つの竹林整備についての在り方を学ぶ、午後には懇親食事会も実施した。

⑥その他目的を達成するために必要な事業

該当事業なし

<第2号議案> 2024年度収支決算報告

2024年度(第18期)活動計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)		備考
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	186,000		年会費(31名*6千円)
利用会員受取会費	1,924,000		年会費(481名*4千円)
賛助会員受取会費	100,000	2,210,000	年会費(1社)
2 受取寄付金			
受取寄付金	456,079	456,079	個人
3 受取助成金			
受取助成金	351,377	351,377	あいち森と緑の交付金
4 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	11,094,800		
普及啓発事業収益	408,100		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	71,956		
自然環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益	0	11,574,856	
5 その他収益			
雑収益	17,470		バス旅行謝礼金等
受取利息	5,660	23,130	
経常収益計			14,615,442
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	3,992,500		
通勤手当	254,240		
法定福利費	730,667		
人件費計	4,977,407		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,697,500		
教材費	198,566		
会場費	852,015		
広報費	495,000		
リーフレット代	354,200		
講師交通費	111,230		
スタッフ交通費	1,379,080		
消耗品費	697,442		
家賃	960,000		事務所家賃
水道光熱費	121,245		
コピー機維持費	211,436		
保険料	338,450		NPO活動総合保険
通信運搬費	857,545		郵送費、通信費
その他経費計	8,273,709		
事業費計		13,251,116	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	0		
福利厚生費	12,523		
退職給付費用	50,000		
人件費計	62,523		
(2) その他経費			
セキュリティ料	143,000		
消耗品費	9,024		
租税公課	0		
支払手数料	100,960		
その他経費計	252,984		会計指導料、振込手数料
管理費計		315,507	
経常費用計			13,566,623
当期経常増減額			1,048,819
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			1,048,819
前期正味財産額			7,529,536
次期繰越財産額			8,578,355

2024年度(第18期)貸借対照表

令和7年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金 額(単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	22,064,816		
未収金	351,377		
前払金	109,990		
立替金	418,220		
流動資産合計		22,944,403	
資産合計			22,944,403
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	288,230		
前受金	13,066,500		
預り金	11,318		
流動負債合計		13,366,048	
2 固定負債			
退職給付引当金	1,000,000		
固定負債合計		1,000,000	
負債合計			14,366,048
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		7,529,536	
当期正味財産額		1,048,819	
正味財産合計			8,578,355
負債及び正味財産合計			22,944,403

2024年度(第18期)財産目録

令和7年3月31日現在

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目		金 額(単位:円)		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金	現金手元有高	242,790		
普通預金	三菱東京UFJ銀行植田支店	12,906,117		
普通預金	ゆうちょ銀行	6,911,469		
定期預金	三菱東京UFJ銀行植田支店	2,004,440		
前払金	次年度会場費等	109,990		
未収金	受取助成金	351,377		
立替金		418,220		
流動資産合計			22,944,403	
資産合計				22,944,403
II 負債の部				
1 流動負債				
未払金	3月分給与・リース料・家賃	288,230		
前受金	次年度分受講料、年会費	13,066,500		
預り金	源泉所得税、社会保険料	11,318		
流動負債合計			13,366,048	
2 固定負債				
退職給付引当金		1,000,000		
固定負債合計			1,000,000	
負債合計				14,366,048
正味財産合計				8,578,355

2024年度(第18期)財務諸表の注記

特定非営利活動法人東海自然学園

1 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日、2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会)による

2 事業費の内訳

科 目	自然活動リーダー養成講座	普及啓発事業	調査研究事業	政策についての企画提案事業	自然環境保全事業	その他目的達成するための事業	事業部門計
(1) 人件費							
給料手当	3,194,000	479,100	39,925	239,550	39,925	0	3,992,500
通勤手当	203,392	30,509	2,542	15,254	2,542	0	254,240
法定福利費	584,534	87,680	7,307	43,840	7,307	0	730,667
人件費計	3,981,926	597,289	49,774	298,644	49,774	0	4,977,407
(2) その他の経費							
講師謝礼金	1,667,500	30,000					1,697,500
教材費	156,800	41,766					198,566
会場費	598,415	253,600					852,015
広報費	396,000	59,400	4,950	29,700	4,950		495,000
リーフレット代	283,360	42,504	3,542	21,252	3,542		354,200
講師交通費	88,984	13,348	1,112	6,674	1,112		111,230
スタッフ交通費	1,103,264	165,490	13,791	82,745	13,791		1,379,080
消耗品費	557,954	83,693	6,974	41,847	6,974		697,442
家賃	768,000	115,200	9,600	57,600	9,600		960,000
水道光熱費	96,996	14,549	1,212	7,275	1,212		121,245
コピー機維持費	169,149	25,372	2,114	12,686	2,114		211,436
保険料	270,760	40,614	3,385	20,307	3,385		338,450
通信運搬費	686,036	102,905	8,575	51,453	8,575		857,545
その他経費計	6,843,217	988,441	55,256	331,538	55,256	0	8,273,709
経常費用計	10,825,143	1,585,730	105,030	630,182	105,030	0	13,251,116
参考 (配布率)	0.8000	0.1200	0.0100	0.0600	0.0100	0	1.00

2025年6月6日

特定非営利活動法人東海自然学園

代表理事 朝田 泰 殿

監事 横井 進 

監査報告書

2024年4月1日から2025年3月31日までの、2024年度における業務執行並びに財産及び会計の状況について、特定非営利活動促進法の定めるところにより、同法第18条並びに定款第15条の定めによって監査を行いましたので、下記の通り監査結果を報告します。

記

事業報告・活動計算書・貸借対照表・財産目録及び会計諸帳簿類を精査した結果、経理処理・財産運用及び用途については、いずれも適正であり、業務については当初の目的を概ね達成できたことを認めました。

以上

<第3号議案>

2025年度事業計画

(2025年4月1日～2026年3月31日)

【2025年度方針】

今年度は、「東海シニア自然大学」開講から21年目を迎え、30周年にむけて新たなスタートを切る年である。今後も東海自然学園が益々発展していくように、過去の運営慣習にこだわることなく、世の中の変化を読み、引き続き新たな諸施策を採用し、遂行していく。そして、その結果として会員全員の絆の輪が更に広がり、強くなることを期して事業活動していきたい。

① 自然活動リーダーの養成講座事業

東海シニア自然大学 講座部

■基礎科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する。
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前に下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられるよう進める。
- ・進路説明のタイミングや方法を工夫し、高等科への進学率を高める。

◇担当 11名 (＋アシスタント3名)

◇人数 全73名 (花組37名・星組36名) ※休学者が復学し73名となった

◇実施日 年間30日間 (隔週金曜日)

◇計画内容

- ・年間カリキュラムの運営・進行・安全管理。
- ・学園祭に向けてクラスの取り組み。
- ・各委員会の活動支援。
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善や見直し。
- ・記録、報告書の作成。

■高等科

- ・担当スタッフの連携を深め、連絡を密にし、充実した内容で安全に運営する
- ・合宿を含め、講師やフィールドの変更が必要な科目は全担当スタッフで事前に下見や打ち合わせをし、スムーズに当日が迎えられるよう進める。

◇担当スタッフ 5名

◇受講生人数 高等科37名 選択科年間のべ17名

◇実施日 火曜日 (原則)

◇計画内容

- ・年間30日間のカリキュラムを計画
- ・各委員会の活動支援
- ・学園祭に向けてクラスの取り組みを支援するとともに基礎科への支援
- ・振り返りなど受講生の評価を参考に、カリキュラムの改善・見直し
- ・記録、報告書の作成

■カリキュラム選択科

- ・高等科受講生を含め40名を最大人数とし、それ以上の希望がある場合は抽選とする。
(ただし、会場の定員数が40名以下の場合は選択科からの参加は不可となる)

■専修科

- ◇ 担 当 3 名
- ◇ 定 員 20 名（講座により最大 17 名） 催行最少人数 12 名
- ◇ 実施日 年間 10 講座 13 日間
- ◇ 計画内容
 - ・ 昨年度までアクセス道路崩落のため中止していた「乗鞍・西穂高」講座を 3 年ぶりに開講する。
 - ・ 振り返りなど受講生の評価を参考に講座内容の改善、見直しを図る。
 - ・ 新講師、新講座の可能性を常に模索し、マンネリにならないようにする。
 - ・ 3 回/年に分け参加募集し、定員を確保する。

広報

- ◇ 担 当 スタッフ（5 名）、サポート隊（10 名）
- ◇ 方 針 積極的に新しい広報策を模索し実施する。
- ◇ 目 標 他の科・サポート隊との連携を強化し、定員 72 名確保を目指す。
- ◇ 具体的計画
 - 『22 期生募集』
 - ・ 募集パンフレットの発行数は 10,000 部とする。
 - ・ 募集パンフレット発送 = 1 回目（6 月 23 日）2 回目（10 月 20 日）
 - ・ 体験入学の実施 = 1 回目 = 6 月 24 日午前、2 回目 = 11 月 21 日午前
3 回目 = 1 月 27 日午後
座学 = 森林公園案内所内多目的利用室、フィールド = 同一般公園
講師 = 久村三重子（2 期生）
 - 『学園広報活動』
 - ・ メディアに投稿・取材依頼等を行う。（新聞社・テレビ局・日本自然保護協会等）
 - ・ イオンイエローレシートキャンペーン活動に参加する。
 - ・ 「環境デーなごや」に参加する。開催日 = 9 月 13 日（土）

② 普及啓発事業

環境教育部

■環境教育科

- ◇ 担 当 3 名
- ◇ 人 数 61 名
- ◇ 方 針

社会貢献することを目的とし、様々なインタープリテーション技術の取得、向上を目指す。
また、利益を追及する事業のみではなく、収入につながらなくとも自身の技術向上や社会貢献的価値のある事業を実施する。
- ◇ 目 的 自然の仕組みや魅力、楽しさや大切さを伝える。
- ◇ 今年度の目標
 - ・ 目標① 本来の活動である『人に伝えるアウトプット活動』を、積極的に取り組む。
 - ・ 目標② 今年度の目玉となるような新作を考える。
 - ・ 目標③ より良い作品を仕上げられるよう、技術の向上を図り、丁寧な仕上げに努める。
- ◇ 計画内容
 - 毎月 2 回（第 2、第 4 水曜日）の定例活動を行う。（北生涯学習センターを利用）
 - 恒例となっているイベントは全てに参加予定→戸田川緑地イベント（春・秋）、大曾根七夕祭り、なごや環境大学（上期・下期）、障害者支援施設、学園祭。
 - 作業のみではなく、議論や提案の時間を設け、メンバーの想いを汲み入れた活動を目指す。

③ 調査研究事業

研究部

■自然観察科

自然観察を通して、自分自身の学習意欲を高め、(リーダーとして)社会貢献することを目的に、楽しく元気に学習・研究・実践を行う。

◇実施日 第2・4月曜日

◇担当 6名

◇人数 18名

◇目標 お互いに学びあい知識を深める。

自然観察科の目的である自分自身の学習意欲を高め、社会貢献できるよう年間計画を立て学習・実践する

◇活動内容

- ・ オリエンテーションと班会議 1回
- ・ 観察会 12回；3班体制で各班4回企画担当、プラチナコースは班体制とは別枠
葦毛湿原、陶史の森、明智の森、伊吹山、面の木園地、城山、可児川・鳩吹山山麓、
明德公園、犬山・禅師野 新郷瀬川、竹島、勅使池他
- ・ 座学と懇親会 1回
- ・ 天白公園観察会（一般参加者向け） 下見3回・本番3回
（天白公園整備クラブ・天白生涯学習センター共催）
- ・ 基礎科受託講座 下見1回・リハーサル1回・本番2回(花組・星組)

④政策についての企画提案事業

事業部

■新規事業科

◇担当 6名 （検討課題によりメンバーは随時編成）

◇内容

●交付金申請

- 1) 「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」（2024年度に続き6回目）
→交付金は406,000円で決定、自然保護に関わる人材育成・確保に活かし、更なる活動の発展につなげる。
- 2) 新たな助成金申請先の調査（各種団体の助成金情報の資料集め）、次年度への準備とする。

●今年度の研修講座テーマ

- 1) 天体講座・気象講座：交付金対象講座ではないが、高等科講座などにつなぐ目的
- 2) 森林公園整備科の研修講座：科員確保を目的としたPR講座
- 3) 外部講師による研修講座：整備地に関連する植物・生き物をテーマとして企画
- 4) 里山整備体験ツアー：森林公園、瀬戸里山の整備地をバスでめぐる

●森林公園整備科の20年活動記録について 冊子を作成を検討

交流部

◇担当 6名

◇年間目標

- ・OB会員の活性化、親睦を目的とした企画を計画し実施する。

- ・クラブ活動が安全、健全に実施されるよう、実態の把握に努め助言する。

◇実施内容

●クラブについて

- ・7/9（水）クラブ長・地域サークル長会議を開催する。
- ・4/1 付け活動開始の新2クラブ（竹親倶楽部、海上の森・山歩クラブ）の順調な定着を目指す。また、新たなクラブ設立を呼びかけ、クラブ数を増やす。

●OBの活動について

- ・宿泊を伴うOB旅行を企画し、実施する。

●「あらくさについて」

- ・例年どおり4回発行する。

◇各クラブの活動計画

「野鳥クラブ」

●クラブ長 加藤浩生（15期） 登録人員（43名） 会費 1,000 円／年

●活動方針と目標

野鳥観察を通して、野鳥に親しみ、自然への意識を深め、かつ会員相互の親睦を図る。

- ① 探鳥会を4回開催する（探鳥会頻度はあれば増やす）。
- ② 野鳥知識をより深めるため、座学を1回開催する。
- ③ 秋の学園祭にクラブとして参加する。
- ④ クラブ員間の親睦を深める。

●運営方法

全体を3班に分け、各班の代表者を集め、各探鳥会、座学、学園祭展示作成等について議論・決定し、その運営まで行う企画運営委員会を新設する。今期は役員を含む8名で構成される。

●活動計画

第1回	探鳥会・活動計画提示	5月	（夏鳥：海上の森）
第2回	探鳥会	7月	（高原の鳥：未定）
第3回	座学・食事会	8月	（テーマ：未定）
第4回	探鳥会	9月	（旅鳥：藤前干潟）
第5回	学園祭	11月	（テーマ：野鳥クラブ活動紹介）
第6回	探鳥会	2月	（冬鳥・水鳥：勅使池）
第7回	探鳥会・総会	3月	（小幡緑地）

但し、時期や場所は、変更があることを前提とする。

「写真クラブ」

●クラブ長 嶋田 茂雄（9期） 登録人員（44名） 会費 1,000 円

●活動方針

- ・自然の景観・生物、これを取り巻く生活環境等を撮影し作品作りを楽しむ。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

4/21 月	・室生寺と大野寺撮影会・・・（奈良県宇陀市）
5/23 金	・レッドヒルヒースターの森撮影会・・・（三重県津市）
6/4 水	・午前中：互選会・午後鶴舞公園百合撮影会
7/1 火	・白馬五竜高山植物園撮影会・・・（長野県北安曇郡白馬村）
8/20 水	・互選会 2L～A4 程度のプリントでの互選会と午後写真研究会「神田荘」
9/25 木	・伊良湖岬一泊撮影会・・・（愛知県田原市）
9/26 金	・朝夕の撮影
10/8 水	・互選会 2L～A4 程度のプリントでの互選会「神田荘」＊午後白鳥庭園撮影会
11 月	・学園祭写真展示・モリコロパーク
12/3 水	・竜吟の森撮影会・・・（岐阜県瑞浪市）

- 1/19 月 ・ 互選会と写真研究会 2 L ～ A4 程度のプリントでの互選会「神田荘」
 2 月 ・ 随時計画
 3/4 水 ・ 豊橋のんほいパーク撮影会・・・(愛知県豊橋市)
 3/26 木 ・ 2025 年度総会と親睦会(食事会)

「地質クラブ」

- クラブ長 園田信五(11期生) 登録人員(122名) 会費1,000円
- 活動方針や目的・目標
 - ・前年度同様に”地質を知れば見る風景が変わる”を方針巡検などを行う
- 活動計画
 - 5月22日 加仙鉱山と瀬戸蔵 36名参加
 - 6月10日 神島
 - 6月17日 東三河ジオサイト巡検一吉祥山など巡検
 - 上記以外にも1,2回の巡検と講演会を行いたい

「植物クラブ」

- クラブ長 山田守(19期生) 登録人員(93名) 会費1,000円
- 活動方針・目標
 - 様々な場所で植物観察会を開催し、その楽しさを分かち合い、伝え合う
- 活動計画

活動日	行き先	活動内容(植物観察のテーマなど)
5/7(水)	阿寺溪谷 (長野県大桑村)	阿寺ブルーと呼ばれる清流、木曽五木、切り立った岩が織りなす自然の造形美の中での、様々な植物の観察
6/4(水)	内藤記念くすり博物館	併設する薬用植物園で解りやすく植物の名前やその植物の持つ効用の説明図を見ながらの観察を楽しむ
6/20(金)	豊田自然観察の森	植物の他、昆虫や野鳥も豊富です。森の仲間に会いに行こう!
7/1(火)	白馬五竜高山植物園	多種多様な高山植物との出会いを楽しみましょう! ※写真クラブとコラボ開催
9/22(月)	納古山林道	
10/3(金)	明智の森	シラヒゲソウを見に行こう!
11/26(水)	京都府立植物園	
3月下旬	築水の森	東海丘陵要素の一つシデコブシの自生地を観察しよう

「植物アートクラブ」

- クラブ長 木村 隆夫(14期生) 登録人員(25名) 会費2,000円
- 活動内容
 - ・植物の特徴をとらえ、それを描くことにより表現の楽しさを知る。
 - ・月毎の課題に沿って作品を仕上げる。
 - ・全員の作品を鑑賞し、講師の講評・助言を通し作品の質を高め、また親睦を図る。
 - ・学園祭において作品の展示を行う。
- 活動計画
 - ・日程 毎月第4木曜日 主な活動場所「名古屋市総合福祉会館」

開催日	例会	題	内容
4月24日	自己紹介・年間計画	画材と用具	絵を描くために必要なもの
5月22日	野外スケッチ(写生会)		
6月26日		鉛筆の可能性	鉛筆の濃淡(グレイトーンを描く)
7月24日		鉛筆濃淡で形を描く	鉛筆で形を描く
8月28日	学園祭計画	着色材を使う	花を描く(着色材を使う)
9月25日		常緑の枝葉を描く	葉を描く(着色材を使う)
10月23日		紅葉樹を描く	紅葉の枝葉を描く
11月27日		落葉を描く	落ち葉を描く
10～11月	秋の懇親会(写生会)		
12月27日		花芽・葉芽を描く	山茶花、椿の花枝を描く
1月22日	(PM)新年会	身近なものを描く	野菜、生り物を描く
2月26日		曲線を描く	ツタを描く
3月26日	総会・作品発表会		

「自然句詠クラブ」

●クラブ長 伊藤 繁子(8期生) 登録人員(15名) 会費1,500円

●活動方針・目標

- ・自然を愛(め)で、その感動を575(俳句)に表現し楽しむ。
- ・メンバー全員が何らかの役割を担い、クラブの運営に主体的に参画する。

●活動計画

- ・月1回(月末週)句を持ち寄り句会を実施する(お互いに評価し合う)
- ・句会実施日に終了後、希望者で反省懇親会を実施する。
- ・句会のうち年1回、吟行(現地に赴き作句し句会を実施)。
- ・1年の纏めとして句集を編集する。
- ・「写真で1句」を年1回行う。

「湿地・水辺クラブ」 ※今年度よりクラブ名称を改めた

●クラブ長 小沢 球一(10期生) 登録人員(14名) 会費2,000円

●方針・目標

- ・湿地、湿原の観察会、河川の水生生物採集、魚釣り等の水辺の活動を行うほか湿地保全のボランティア活動を行う。

●活動計画

- ・4/26 東山植物園 観察会、
- ・5/29 香流川 水生生物採集・観察会、
- ・6/7 森林公園 観察会、
- ・7/11～7/12 御泉水自然園、八島ヶ原湿原 観察会
- ・8/24 大森・奥山湿地 観察会
- ・9/6 アクアワールド水郷パーク 観察会
- ・10/1 明智の森 観察会
- ・11/6 陶史の森 観察会
- ・12/8 琵琶湖 観察会
- ・1/18 小幡緑地水生園 湿地保全ボランティア活動
- ・2/15 小幡緑地水生園 湿地保全ボランティア活動

「ハイキングクラブ」

●クラブ長 栗田 博之(13期生) 登録人員(121名) 会費1,000円

●活動方針

- ・その町のガイドさんと散策し、町の探訪を通して自然や歴史にふれあい知識を高める。
- ・体力の維持及び増進。
- ・活動への参加を通じて会員相互の交流と親睦をはかる。

●活動計画

- ・第 26 回 西尾ハイキング 2025 年 5 月 22 日 (木)・5 月 29 日 (木)
- ・第 27 回 根尾、谷汲山ハイキング 2025 年 10 月 23 日 (木)
- ・第 28 回 蒲郡竹島ハイキング 2025 年 12 月 4 日 (木)・12 月 11 日 (木)
- ・第 29 回 津島ハイキング 2026 年 3 月 12 日 (木)・3 月 19 日 (木)

「蝶と花の観察クラブ」

●クラブ長 大脇 雅久 (8 期生) 登録人員 (30 名) 会費 1,000 円

●活動目的

- ・東海地方の減少傾向にあるチョウ類と植物の調査。
- ・観察会などで蝶と植物の解説ができるリーダーの育成。

●活動計画

- 4 月 3 日 (木) 海上の森観察会 (定点観察)
- 4 月 7 日 (月) 北山湿地観察 (岡崎市)
- 4 月 15 日 (火) 竜吟湖周辺観察会 (釜戸) スプリングエフェメラル 越冬タテハチョウなど
- 4 月 24 日 (木) 武豊自然公園 (武豊市) アゲハチョウ科の蝶類など
- 5 月 1 日 (木) 開田高原 (木曾福島) ギフチョウ チャマダラセセリなど
- 5 月 15 日 (木) アルプス公園 (松本市) オオルリシジミ ウスバシロチョウなど
- 5 月 17 日 (土) 熊野神社 (常滑市) ミカドアゲハ ゴマダラチョウなど
- 5 月 22 日 (木) 鳥倉林道 (南アルプス) クモマツマキチョウ キベリタテハ (越冬) など
- 6 月 3 日 (火) 海上の森観察会 (定点観察) 初夏のチョウたち
- 6 月 24 日 (火) のぞきど高原 (木曾 野尻) ハヤシミドリシジミ ジョウザンミドリシジミなど
- 6 月 26 日 (木) 黒田ダム (愛知県 稲武) メスアカミドリシジミ スミナガシ アオバセセリ (幼虫)
- 7 月 15 日 (火) 上高地 オオイチモンジ ヒョウモン類
- 7 月 24 日 (木) 石博峠 (三重県 員弁) キリシマミドリシジミ クロシジミ

「竹親倶楽部」 ※新たに立ち上がったクラブ 4 月より活動開始予定

●クラブ長 石川 明博 (10 期生) 登録人員 (50 名)

●活動目的 竹細工を行うことにより会員相互の親睦を図る

●活動内容 (1) 竹林の間伐を行う (2) 生活用品などを製作する

●活動計画 ・原則 毎月第 1 金曜日と第 3 火曜日 9 時 15 分～12 時 30 分
・北生涯学習センターを主な活動会場とする

月	日	内容	備考
4 月	4 月 4 日	総会	竹の配布、竹を割る剥ぐ練習
	4 月 15 日	ヒゴまたは作品作り	竹割台、木槌配布
5 月	5 月 2 日	ヒゴまたは作品作り	四海波花かご開始
	5 月 20 日	ヒゴまたは作品作り	〃 〃
6 月	6 月 6 日	ヒゴまたは作品作り	四ツ目編み立ち上げ
	6 月 17 日	ヒゴまたは作品作り	四ツ目編みカゴ枠付け
7 月	7 月 4 日	ヒゴまたは作品作り	四ツ目編みカゴ持手付け
	7 月 15 日	ヒゴまたは作品作り	刃物研ぎ講習
8 月	8 月 1 日	ヒゴまたは作品作り	自由工作
	8 月 19 日	休会	
9 月	9 月 5 日	ヒゴまたは作品作り	六つ目編み足つきカゴ
	9 月 16 日	ヒゴまたは作品作り	枠付け
10 月	10 月 3 日	ヒゴまたは作品作り	足付け
	10 月 21 日	ヒゴまたは作品作り	学園祭打ち合わせ
11 月	11 月 7 日	ヒゴまたは作品作り	自由工作
	11 月 18 日	竹林間伐	雨天の場合作品づくり
12 月	12 月 5 日	竹林間伐予備日	間伐済なら作品づくり
	12 月 16 日	花器またはミニ門松づくり	
1 月	1 月 2 日	休会	
	1 月 20 日	ヒゴまたは作品作り	船底編み手付きカゴ
2 月	2 月 6 日	ヒゴまたは作品作り	長いヒゴづくり
	2 月 17 日	ヒゴまたは作品作り	編み込みの方法
3 月	3 月 6 日	ヒゴまたは作品作り	枠と手付
	3 月 17 日	ヒゴまたは作品作り	振り返り

「海上の森・山歩クラブ」 ※新たに立ち上がったクラブ 4月より活動開始予定

- クラブ長 鈴木行薫（15期） 登録人員（79名） 年会費 無
- 活動方針 海上の森の自然に親しみ、自然への造詣を深め会員相互の研鑽と親睦を図る
- 活動計画 毎月1回（8月、1月を除く） 海上の森の自然を観察しながら歩く。

⑤自然環境保全事業

自然保護部

■森林公園整備科

◇活動日 毎月第2・第4木曜日

◇科員数 24名

◇活動計画

- ・スタッフ不在でも活動可能な体制づくりを目指す。
- ・作業開始前に、ラジオ体操、安全作業マニュアルの読み合わせを行い安全作業に努める。
- ・2025年度の活動は協定区域のB地区で行う。
- ・植生調査結果を各班で取り纏め、調査結果に基づいた整備行う。
- ・希少種・残したい植物は印を付けて保護する。
- ・学園祭には、学園係が主導で参加出来る体制づくりを目指す。

■瀬戸里山整備科

年間計画を作成した、竹林ではタケの更新を考える、雑木林は全体の樹木調査を完成させ残す樹木を明確にする。 今年も整備場所への往復道について一斉清掃を計画、また古いBOXの整理、伐採したタケ本体と枝の分別保管を確実に行う。
安全作業を徹底することで、1年間事故のない活動を目指す。

◇担当 5名

◇登録者 21名

◇実施日 第3土曜日、但し雨天の場合は、予備日第4土曜日

◇活動場所 瀬戸市曾野町

◇活動内容

- ① 安全作業を最優先し、事故のない作業を行う
- ② 除伐作業安全マニュアルの充実を図り、作業前に読み合わせを行う。
- ③ 森林公園整備科と合同で、日赤救急法講習に申し込む、その後交流会を計画する。
- ④ 科員増員の広報活動に新規事業科計画の整備地ツアーを活用、協力体制を組む。
- ⑤ 学園祭（係）委員を19期・20期生に任せ、新たなPR展示を目指す。
- ⑥ 整備科の運営について役割分担の見直しを行い、継続可能な体制を試行する。

⑥その他目標を達成するために必要な事業

該当事業計画なし

〈第4号議案〉

2025年度収支予算計画

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

特定非営利活動法人東海自然学園

科 目	金額(単位:円)		備考
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	186,000		年会費(31名*6千円)
利用会員受取会費	2,176,000		年会費(544名*4千円)
賛助会員受取会費	100,000	2,462,000	年会費(1社)
2 受取寄付金			
受取寄付金	150,000	150,000	個人等
3 受取助成金			
受取助成金	406,000	406,000	あいち森と緑づくり交付金
4 事業収益			
自然活動リーダー養成講座事業収益	11,218,000		
普及啓発事業収益	260,000		
調査研究事業収益	0		
政策についての企画提案事業収益	50,000		
自然環境保全事業収益	0		
その他目的達成するための事業収益	0	11,528,000	
5 その他収益			
雑収益	0		
受取利息	0	0	
経常収益計			14,546,000
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	4,005,000		
通勤手当	250,000		
法定福利費	740,000		
人件費計	4,995,000		
(2) その他経費			
講師謝礼金	1,745,000		
教材費	130,000		
会場費	740,000		
広報費	530,000		
リーフレット代	355,000		
講師交通費	100,000		
スタッフ交通費	1,590,000		
消耗品費	516,000		
家賃	960,000		事務所家賃
水道光熱費	155,000		
コピー機維持費	245,000		
保険料	400,000		
通信運搬費	900,000		NPO活動総合保険
その他経費計	8,366,000		郵送費、通信費
事業費計		13,361,000	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	180,000		
福利厚生費	15,000		
退職給付費用	150,000		
人件費計	345,000		
(2) その他経費			
セキュリティ料	150,000		UTM、会計ソフトの保守
消耗品費	30,000		
租税公課	550,000		消費税
支払手数料	110,000		会計指導料、振込手数料
その他経費計	840,000		
管理費計		1,185,000	
経常費用計			14,546,000
当期経常増減額			0
III 経常外収益			0
IV 経常外費用			0
当期正味財産増減額			0
前期正味財産額			8,578,355
次期繰越財産額			8,578,355

<第5号議案>

2025年度役員選任

2025年度の役員として下記の方を選任致します。

- ・ 代表理事 朝田 泰
- ・ 筆頭理事 中野 治男
- ・ 理事 上田 元己
- ・ 理事 吉村 至衛
- ・ 理事 森下 保男
- ・ 理事 森 静枝
- ・ 理事 鈴木 好則
- ・ 理事 中川 員
- ・ 理事 波多野 桂一
- ・ 理事 祖父江 洋子
- ・ 理事 霜 桂子
- ・ 理事 近藤 秀光
- ・ 理事 寺澤 明子
- ・ 理事 杉田 春一
- ・ 理事 中村 由紀子
- ・ 理事 服部 幸枝
- ・ 理事 真島 富男
- ・ 理事 山田 佳代子
- ・ 理事 浅野 公佐
- ・ 理事 井戸 宗直
- ・ 理事 酒井 博司
- ・ 理事 武藤 信一郎
- ・ 監事 横井 進

その他報告事項

上記役員以外の2025年度正会員

- ◆ 友松 康二 (17期生)
- ◆ 田中 久恵 (18期生)
- ◆ 久田 るり子 (18期生)
- ◆ 松永 初代 (18期生)
- ◆ 渡邊 朋子 (18期生)
- ◆ 浅野 義正 (19期生)
- ◆ 中川 宣子 (19期生)
- ◆ 森田 健一 (19期生)